



持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

私たち農林中央金庫の仕事は、
ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。

なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、
自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。
モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。

だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、
規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。
そうして、100年の歴史を重ねてきた。

しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。
農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、
私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。

金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。
現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。
生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応えていく。

農林水産業から生まれる「いのち」は、
その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。

いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。
未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、
より豊かで確かなものにするために。

パーパス(私たちの存在意義)

持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

ステークホルダーのみなさまとともに、
農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、
持続可能な地球環境に貢献していきます



農林中央金庫

NORINCHUKIN

パーパスに込めた想い

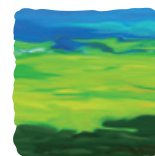
「人のいのち」と「食べ物(生物)のいのち」と「地球(星)のいのち」は
繋がっています。

私たちが生きるためには食べ物が必要、食べ物を届けてくれるのが
農林水産業、農林水産業が作り出す食べ物すなわち動物や植物は、
水や空気といった自然の恵みの授かりもの。

自然の恵みは、持続的な地球環境があってこそもたらされるものです。

こうした“いのちの連鎖”を踏まえ、私たちが掲げる「持てるすべてを
「いのち」に向けて。」というコーポレートブランドのタグラインを
もう一段具体化して、「パーパス(私たちの存在意義)」を定めました。

コーポレートロゴ



NORINCHUKIN

農林中央金庫

農林中央金庫のロゴマークに描かれているのは、

農林水産業が営まれ、数多の「いのち」がつながってきた、
日本の景色そのものです。

海・大地・森の各色がひとつに混じり合うその様は、

そこにある「いのち」の息吹と、

ともに歩み続ける私たち一人ひとりの、

意思を表しています。

ごあいさつ

みなさまには、平素より当金庫の業務に関し、多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、当金庫の概要や2025年度の業務実績等を紹介した統合報告書を発行しました。本年度は以下のポイントで内容のアップデートを図りましたので、ぜひご一読ください。

2025年度の世界経済は、インフレ鈍化や欧米での政策金利の引下げが継続した一方で、通商政策の不透明感や地政学リスクの高まりによる不確実性の高い状況が続きました。国内に目を向けると、日本銀行による金融政策の正常化が緩やかに進むなか、通商・財政政策や中東情勢を背景とした物価上昇懸念から長期金利は上昇基調となり、為替市場は変動の大きい状況が続きました。

国内の農林水産業を取り巻く環境は、担い手の減少、気候変動に加えて、不安定な世界情勢を受けた燃料・資材価格の高騰など、生産コストの上昇もあり、非常に厳しい状況にあります。一方、そうした不安定な情勢だからこそ、改めて「食料安全保障」や「持続可能性」などの観点から、日本の農林水産業のあり方にこれまで以上に高い関心が寄せられています。

当金庫としては、JA・JF・JForestグループと連携して、協同組合ならではの役割・機能を発揮しながら、農林水産業者をはじめとするステークホルダーのみなさまに対して最大限のサポートを継続し、農林水産業の持続的な発展へ貢献してまいります。

最後になりますが、JAバンク、JFマリンバンク、JForestグループおよび当金庫を、これまで以上にお引き立て賜りますよう、お願い申し上げます。

2026年7月



経営管理委員会会長
神農 佳人

代表理事理事長
北林 太郎

本年度の 統合報告書の ポイント

各Chapterの要点をわかりやすく
お伝えする工夫

価値創造プロセスを軸とした
冊子構成の見直し

当金庫を取り巻く
外部情勢・潮流を意識

当金庫のガバナンスをわかりやすく
お伝えする工夫

本年度の統合報告書は5つのChapter(章)から構成されています。各Chapterの要点をわかりやすくお伝えするために、それぞれの冒頭のページ(トビウ)において、ポイントとなる要素をQ&A形式でご紹介する工夫を凝らしました。

主にChapter2において、当金庫の経営メッセージ(理事長・CFO)に続けて、当金庫の価値創造プロセスを軸に、歩んできた歴史、培ってきた経営資本(強み)、事業領域と中期ビジョン、そしてステークホルダーのみなさまへ提供する価値などを一連の流れでお伝えできるよう構成を見直しました。

2026年4月の農林中央金庫法改正を踏まえた内容と関係するコンテンツで掲載したほか、人的資本経営をはじめ企業の開示が加速化する要素を意識して、各コンテンツの構成見直し・掲載情報のアップデートに努めました。

当金庫のガバナンスについてご紹介するChapter5では、冒頭に経営管理委員座談会のコンテンツを配置するなど、当金庫の特徴的なガバナンス体系をよりわかりやすくお伝えする工夫を凝らしました。